

Back Number

本論文は

世界経済評論 2021 年11/12月号

(2021 年 11 月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

東アジア（RCEP+台湾）、USMCA、SAFTAを一つの貿易地域（インド太平洋）としてみると、地域内貿易の規模はEU域内をはるかに上回る世界最大の貿易地帯となる。このインド太平洋貿易の過半は中間財取引である。中間財には、ガソリン、プラスチックなどの化学品、鉄鋼、繊維などの加工品、集積回路や自動車部品などの機械部品等業種が広範囲及んでいる。ただし、中間財貿易も中心は東アジア、USMCAが中心でインドには及んでいないが、インドの中間財の成長率は高く、中間財貿易で輸出入ともに東アジアへの依存度を高めている。米中の貿易戦争を契機に、チャイナ+1としての生産移管先にインドが含まれるようになってきており、インド市場を取り込んだインド太平洋貿易の新たな発展が期待されている。

1. インド太平洋貿易の構図

インド太平洋を東アジア（RCEP：地域的な包括的経済連携協定+台湾）を軸にして米国（USMCA：米国・メキシコ・カナダ協定）とインド（SAFTA：南アジア自由貿易圏）を包含した広域地域とすると、その貿易規模は、2020年で輸出が8兆3,140億ドル、世界貿易の48.5%を占めている。輸入では、8兆410億ドル、世界貿易の46.9%を占めている（表1）。ともにEU貿易を遥かに上回る規模である。貿易成長率、2000～2020年間の成長率は、輸出で5.5%、世界平均の5.1%を上回って拡大した。

インド太平洋地域内貿易額は、東アジア域内貿易が2兆5,350億ドルと最大、次いで、USMCA域内貿易の1兆1,110億ドル、東アジア→USMCAが1兆520億ドル、USMCA

→東アジアが4,340億ドル、東アジア→SAFTAが1,980億ドル、SAFTA→東アジアが700億ドル、SAFTA→USMCAが680億ドル、USMCA→SAFTAが400億ドル、SAFTA域内が240億ドルである。インド太平洋貿易を一つの貿易地帯としても、実態は、東アジアとUSMCAの2極体制であり、インドの影は薄い。

しかし、成長率の視点でみると、中国に加えてインドが登場する。中国の貿易成長率は、2000～2020年間で輸出が12.4%、輸入が10.8%、インドは輸出が9.8%、輸入が9.3%である。特に、インドの対アジア太平洋貿易は、輸出入ともに10%を超える高い伸び率で成長している。インドの貿易は、規模は小さいが、次の成長市場として期待されている。インドの取り込みがインド太平洋貿易の発展につながる。

2. 東アジア・USMCAに向かうインドの中間財貿易

インド太平洋の主要11か国（日本、中国、韓国、台湾、ベトナム、タイ、インドネシア、マレーシア、インド、米国、メキシコ）の貿易データから、財別（素材、中間財、資本財、消費財）貿易を試算したのが表2である。なお、財別貿易は、国連のBEC（Broad Economic Categories）分類に基づきITIが集計した。BEC分類では、中間財のうち、加工品は、食料・飲料と産業用資材と燃料・潤滑剤に分けられている。このうち産業資材に鉄鋼、繊維、化学品等多様業種が含まれ、品目数ではHS6桁



大木 博巳

表1 世界貿易におけるインド太平洋貿易

①世界貿易とインド太平洋貿易（2020年、輸出額、10億ドル）

国名	相手国	東アジア				USMCA		SAFTA		インド太平洋計	EU	世界計
		RCEP	日本	中国		米国		インド				
東アジア		2,535	2,361	322	699	1,052	908	198	136	3,785	772	5,733
日本		335	291	-	141	134	118	12	9	481	70	638
中国		761	701	143	-	540	453	103	67	1,404	465	2,598
USMCA		434	401	77	151	1,110	626	40	33	1,584	348	2,239
米国		374	343	64	125	468	-	33	27	875	292	1,432
SAFTA		70	68	5	22	68	60	24	3	162	73	342
インド		62	61	4	19	55	49	19	-	137	46	276
インド・太平洋計		3,039	2,831	404	872	2,230	1,595	262	172	5,531	1,193	8,314
EU		540	512	70	251	543	461	51	41	1,134	3,744	5,856
世界計		4,538	4,274	556	1,765	3,032	2,280	471	343	8,041	5,706	17,130

②輸出平均伸び率（2000-2020年、%）

国名	相手国	東アジア			USMCA		SAFTA		インド太平洋計	EU	世界計
		日本	中国		米国		インド				
東アジア		7.2	3.9	11.9	5.1	4.8	10.8	12.0	6.6	6.0	6.8
日本		3.3	-	8.0	△0.8	△1.0	5.5	6.7	1.8	△0.7	1.5
中国		12.0	6.4	-	11.9	11.4	17.9	20.6	12.2	12.9	12.4
USMCA		3.8	0.4	11.0	2.5	2.4	10.9	11.0	2.9	3.2	3.1
米国		3.4	△0.0	10.8	2.5	-	10.4	10.6	3.0	2.8	3.1
SAFTA		11.1	4.1	16.5	7.2	7.0	11.0	8.7	9.1	7.6	8.8
インド		11.9	4.2	17.5	9.0	8.8	12.4	-	10.6	7.8	9.8
小計		6.6	3.0	11.8	3.7	3.8	10.8	11.7	5.3	5.0	5.5
EU		6.6	2.6	12.5	3.9	3.8	5.7	6.1	5.1	4.1	4.5
世界計		6.6	2.6	10.8	3.4	3.4	9.0	9.3	5.3	4.3	5.1

注：東アジアは、RCEP+台湾。なお、台湾は、台湾貿易統計より補てんした。

資料：IMF; DOT (2021年5月)、台湾貿易統計

表2 主要11か国のインド太平洋貿易（財別・地域別構成比、2020年、%）

	財	東アジア				USMCA		SAFTA		インド太平洋計	世界計
		日本	中国	ASEAN (10)		米国		インド			
輸出	素材	1.9	0.3	0.8	0.5	0.6	0.1	0.3	0.2	2.8	4.0
	中間財	21.6	2.2	6.4	8.4	10.8	6.1	2.1	1.3	34.4	51.5
	加工品	11.5	1.3	3.1	4.7	5.3	2.7	1.6	0.9	18.4	28.1
	部品	10.0	0.9	3.3	3.7	5.4	3.4	0.5	0.4	16.0	23.4
	資本財	5.9	0.9	1.3	2.2	6.6	4.9	0.6	0.4	13.1	21.6
	消費財	6.1	1.4	1.0	2.0	7.6	5.8	0.3	0.2	14.0	22.9
	合計	35.5	4.7	9.5	13.0	25.5	16.9	3.3	2.1	64.3	100.0
輸入	素材	3.2	0.1	0.1	0.9	2.4	1.1	0.1	0.1	5.7	14.1
	中間財	28.4	4.1	8.2	7.4	7.6	4.0	0.9	0.8	36.9	50.1
	加工品	12.3	1.9	3.6	3.5	4.3	2.3	0.7	0.7	17.3	27.1
	部品	16.1	2.1	4.6	3.8	3.3	1.7	0.1	0.1	19.5	23.0
	資本財	10.4	1.6	5.2	2.1	2.8	1.0	0.1	0.1	13.3	16.9
	消費財	8.7	1.1	3.9	2.6	3.4	1.0	0.7	0.4	12.7	18.9
	合計	50.6	6.8	17.4	13.0	16.2	7.1	1.8	1.5	68.6	100.0

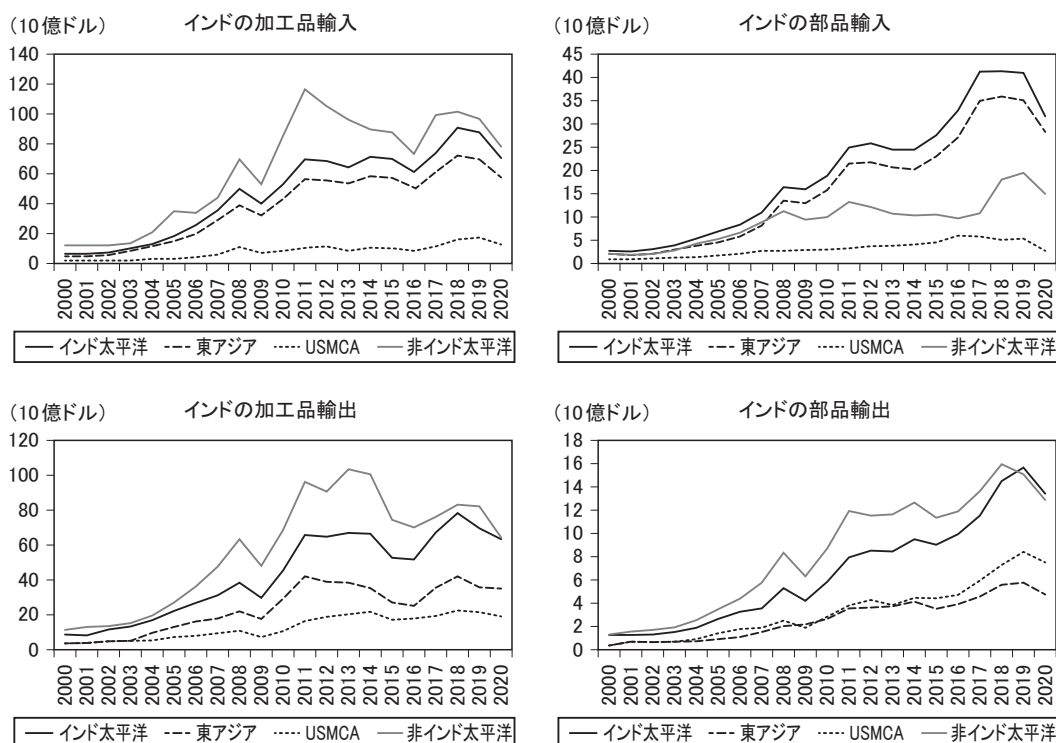
資料：GTAよりITI作成

表3 主要11か国のインド太平洋貿易成長率（2000～2020年間平均成長率，%）

	財	東アジア				USMCA		SAFTA		インド太平洋計	世界計
		日本	中国	ASEAN (10)	米国	インド					
輸出	素材	6.0	1.0	12.0	7.2	2.1	△5.0	12.9	12.4	5.3	5.6
	中間財	6.6	2.7	10.9	6.7	3.5	4.2	11.5	12.4	5.6	5.7
	加工品	7.3	3.4	9.4	9.0	4.8	5.6	11.5	12.7	6.6	6.6
	部品	5.9	1.9	12.9	4.8	2.5	3.3	11.3	11.8	4.6	4.7
	資本財	5.7	3.6	9.9	6.9	5.1	5.9	12.3	13.1	5.6	5.7
	消費財	7.4	3.0	15.3	10.2	4.6	4.8	12.1	14.9	5.7	6.1
	合計	6.5	2.9	11.2	7.2	4.2	4.7	11.8	12.7	5.6	5.8
輸入	素材	7.8	8.5	△0.4	6.0	4.8	6.6	9.0	9.3	6.3	5.9
	中間財	7.1	2.7	12.1	6.7	2.5	2.5	8.6	9.3	5.7	5.6
	加工品	6.5	3.7	10.6	6.9	3.0	3.7	8.2	8.8	5.5	5.5
	部品	7.5	2.0	13.7	6.5	1.8	1.3	11.8	12.4	6.0	5.8
	資本財	6.6	1.9	13.0	5.9	2.2	0.4	13.7	14.4	5.3	5.3
	消費財	5.1	1.6	5.6	7.8	2.8	3.0	6.7	8.2	4.5	4.8
	合計	6.6	2.4	9.7	6.7	2.8	2.7	7.9	9.1	5.4	5.4

資料：GTA より ITI 作成

図1 インドの中間財貿易（対インド太平洋，東アジア USMCA，非インド太平洋）の推移



資料：GTA より ITI 作成

表4 インド太平洋の主要11か国の対東アジア・USMCA・SAFTA 輸出の財別・地域国別構成比(%)

①各地域の輸出額=100

財/業種	HSコード	東アジア	ASEAN(10)			USMCA	米国	SAFTA		インド太平洋計	世界計
			中国	ASEAN(10)	日本・韓国・台湾			インド	インド太平洋計		
素材		5.4	8.3	3.7	5.6	2.2	0.5	8.9	9.3	4.3	4.0
中間材		60.7	67.0	64.3	55.0	42.2	36.1	63.3	63.2	53.5	51.5
加工品		32.5	32.6	36.0	28.9	20.9	16.1	47.4	43.8	28.7	28.1
油脂	15	0.5	0.9	0.6	0.2	0.1	0.1	3.8	3.4	0.5	0.6
鉱物性燃料	27	4.1	3.0	4.9	4.0	1.9	0.4	3.7	2.3	3.2	3.2
化学品	28-40	11.3	14.6	9.7	11.1	6.6	4.6	16.9	19.9	9.8	9.4
無機化学品等	28	1.0	0.7	0.8	1.5	0.4	0.2	1.3	1.6	0.8	0.7
有機化学品	29	2.5	3.6	1.6	2.9	1.3	1.1	6.6	8.6	2.2	2.3
医薬品	30	0.4	0.4	0.2	0.5	0.3	0.3	0.5	0.6	0.4	0.7
染料	32	0.5	0.6	0.6	0.4	0.3	0.1	0.8	0.6	0.4	0.4
各種の化学工業生産品	38	1.4	1.4	1.2	1.7	0.6	0.4	1.3	1.5	1.1	1.1
プラスチック	39	4.0	5.8	3.8	3.0	2.8	1.9	4.2	4.5	3.6	3.1
ゴム	40	0.6	1.2	0.6	0.3	0.4	0.3	0.5	0.6	0.5	0.4
紙	48	0.8	0.6	1.0	0.6	0.7	0.4	0.8	0.6	0.7	0.7
繊維	50-60	2.1	1.2	4.0	1.0	0.7	0.6	6.9	2.2	1.8	1.9
その他の紡織用繊維製品	63	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1
ガラス	70	0.5	0.4	0.5	0.6	0.4	0.4	0.6	0.6	0.5	0.5
貴石、貴金属等	71	0.9	0.6	1.3	0.6	0.9	1.0	2.0	3.1	1.0	1.6
鉄鋼	72-73	4.4	4.2	5.3	3.6	2.5	1.9	5.2	4.1	3.7	3.4
鉄鋼の一次製品	72	2.9	3.5	3.4	2.2	0.8	0.3	3.3	2.5	2.1	1.8
鉄鋼製品	73	1.5	0.6	2.0	1.5	1.7	1.6	1.9	1.7	1.6	1.6
卑金属	74-83	2.5	2.6	2.7	2.4	1.6	1.2	2.8	3.3	2.2	1.9
部品		28.2	34.4	28.2	26.0	21.3	20.0	15.9	19.4	24.8	23.4
一般機械	84	4.9	5.1	4.8	5.0	7.0	6.4	4.0	4.4	5.7	5.4
電気機器	85	20.4	26.3	20.6	18.1	7.7	7.4	8.8	11.9	14.7	13.9
集積回路	8542	12.1	16.9	11.4	11.1	1.3	0.8	1.5	2.3	7.3	6.8
鉄道	86	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0
車両	87	1.6	1.7	1.7	1.4	4.7	4.2	1.8	1.9	2.8	2.5
自動車部品	8707-8708	1.4	1.7	1.3	1.2	4.5	4.0	1.4	1.6	2.6	2.2
航空機	88	0.1	0.0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.1	0.1	0.2	0.2
光学機器	90	0.6	0.8	0.5	0.7	0.4	0.4	0.3	0.3	0.5	0.5
資本財		16.6	14.1	16.5	17.9	25.9	29.2	17.2	18.9	20.3	21.6
消費財		17.2	10.6	15.5	21.5	29.7	34.1	10.7	8.7	21.8	22.9
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

②各財・業種の輸出額=100

財/業種	HSコード	東アジア	ASEAN(10)			USMCA	米国	SAFTA		インド太平洋計	世界計
			中国	ASEAN(10)	日本・韓国・台湾			インド	インド太平洋計		
素材		48.7	19.9	12.2	15.5	14.1	2.1	7.3	4.9	70.0	100.0
中間材		41.8	12.4	16.2	11.7	20.9	11.8	4.0	2.6	66.8	100.0
加工品		41.0	11.0	16.7	11.3	19.0	9.7	5.5	3.3	65.6	100.0
油脂	15	33.2	14.9	13.3	4.5	6.5	4.3	21.7	12.8	61.5	100.0
鉱物性燃料	27	45.7	8.9	20.0	13.5	14.7	2.2	3.7	1.5	64.2	100.0
化学品	28-40	42.7	14.8	13.4	12.9	18.0	8.2	5.9	4.5	66.7	100.0
無機化学品等	28	52.1	10.4	15.1	24.6	15.1	6.3	6.3	5.2	73.6	100.0
有機化学品	29	39.2	15.0	9.4	13.8	14.2	8.2	9.5	8.0	62.9	100.0
医薬品	30	18.4	5.2	3.3	7.6	12.1	6.5	2.4	1.8	33.0	100.0
染料	32	45.1	13.2	19.0	11.8	18.2	4.5	6.8	3.3	70.2	100.0
各種の化学工業生産品	38	46.1	12.7	15.0	17.3	15.6	6.1	4.0	3.0	65.7	100.0
プラスチック	39	45.9	17.8	15.7	10.5	23.0	10.3	4.4	3.0	73.3	100.0
ゴム	40	49.5	24.5	16.9	6.8	23.8	12.6	3.8	2.8	77.0	100.0
紙	48	41.0	8.8	19.7	9.4	27.5	9.6	4.1	1.8	72.6	100.0
繊維	50-60	40.8	6.3	28.0	5.8	10.0	5.1	12.1	2.4	62.9	100.0
その他の紡織用繊維製品	63	33.2	0.3	10.2	18.9	28.5	22.7	0.4	0.2	62.1	100.0
ガラス	70	39.8	9.2	14.2	14.5	24.2	15.1	4.0	3.0	68.0	100.0
貴石、貴金属等	71	20.5	3.6	10.7	4.2	14.4	10.2	4.2	4.1	39.0	100.0
鉄鋼	72-73	46.4	11.9	20.7	11.8	19.0	9.6	5.1	2.6	70.5	100.0
鉄鋼の一次製品	72	58.3	19.1	24.9	13.4	11.2	3.2	6.2	2.9	75.8	100.0
鉄鋼製品	73	33.1	3.8	16.1	10.1	27.7	16.8	3.8	2.2	64.7	100.0
卑金属	74-83	47.9	13.2	18.5	14.1	22.3	11.2	4.9	3.7	75.1	100.0
部品		42.8	14.0	15.7	12.2	23.2	14.4	2.2	1.8	68.2	100.0
一般機械	84	32.2	9.1	11.6	10.1	33.0	19.9	2.5	1.7	67.7	100.0
電気機器	85	52.1	18.1	19.3	14.3	14.1	9.0	2.1	1.8	68.3	100.0
集積回路	8542	63.8	23.9	21.9	18.0	4.9	2.0	0.7	0.7	69.5	100.0
鉄道	86	18.6	4.1	4.0	4.4	44.8	11.8	4.6	4.4	68.1	100.0
車両	87	22.9	6.6	8.8	6.3	47.3	28.2	2.3	1.6	72.5	100.0
自動車部品	8707-8708	21.8	7.1	7.5	6.0	51.3	30.5	2.0	1.5	75.1	100.0
航空機	88	23.6	2.0	7.0	12.1	33.1	30.9	1.8	0.7	58.5	100.0
光学機器	90	47.3	16.0	13.0	17.7	20.3	14.2	1.9	1.6	69.5	100.0
資本財		27.4	6.2	10.0	9.1	30.6	22.8	2.6	1.8	60.6	100.0
消費財		26.7	4.4	8.8	10.3	33.1	25.1	1.5	0.8	61.3	100.0
合計		35.5	9.5	13.0	11.0	25.5	16.9	3.3	2.1	64.3	100.0

出所：GTAよりITI作成

ベースで2000をこえている。部品は資本財部品（輸送機器用除く）と輸送機器用部品の2つの小分類に分けられる。前者には、コンピュータ部品や電子デバイスなど、後者には自動車部品などが含まれている。

この主要11か国の財別貿易（輸出）から見たインド太平洋財別貿易の特徴は以下の通りである。

第1に、インド太平洋貿易では中間財が過半を占めている。主要11か国の貿易に占める対インド太平洋のシェア（2020年）は、輸出入ともに6割超と高い。これを財別構成比で見ると、輸出では中間財が34.4%、資本財が13.1%、消費財が14.0%、輸入では、中間財が36.9%、資本財が13.3%、消費財が12.7%といずれも中間財のシェアが大きい（表2）。

第2に、インド太平洋貿易における最大の輸出先は米国、次にASEAN、中国と続いている。対米輸出は資本財、消費財の比率が高く、ASEAN、中国は中間財の比率が高い。

輸入先では、中国、ASEAN、米国の順となる。主要11か国の対中輸入（中国の輸出）では部品、資本財、消費財のいずれも、中国を最大の輸入先としている。対ASEAN、対米も中間財の比率が高い。

第3に、インド太平洋貿易の財別成長率（2000～2020年間）で最も高く伸びた財は、輸出では加工品、輸入では部品である。加工品輸出では、対インド向け輸出成長率が12.7%と高い伸びを見せている。また部品輸出もインド向けが11.8%と中国に次いで高い成長率を記録している（表3）。

インドの中間財貿易も東アジア、USMCAとの関係を深めている（図1）。特に部品貿易では、輸入は東アジア、輸出ではUSMCAが伸びている。

3. インド太平洋中間財貿易の特徴

主要11か国の中間財貿易を業種（HS2桁ベース）で深掘したのが表4である。インド太平洋の中間財貿易トップ5は、輸出では、電機部品、一般機械（部品）、プラスチック（加工品）、鉱物性燃料（加工品）、車両（部品）である。輸入は電機部品、一般機械（部品）、鉱物性燃料、プラスチック、有機化学品と加工品が続いている。輸出入ともに電機部品のシェア（2020年）が大きく、インド太平洋貿易で輸出が14.7%、輸入では19.4%を占めている。

インド太平洋の中間財貿易は、東アジア、USMCA、SAFTAでそれぞれ違った構造になっている（表4-①）。対東アジア輸出に占める中間財の比率は60.7%、中でも電気機部品が20.4%を占め、次に化学品の11.3%、この2業種で過半を占めている。対USMCA輸出では、中間財の比率は42.2%、このうち加工品が20.9%、部品が21.3%と拮抗している。対USMCA部品輸出では、自動車部品の比率が高い。他方、対インド輸出では、中間財の占める比率が63.3%と東アジアと同様に6割を超えているが、加工品の比率が43.8%と高く、部品は19.4%と小さい。

インド太平洋貿易で中間財取引が過半を占めている理由としては、第1に中間財の品目数が多く、これをすべての国が自給自足することはまず不可能である。特に、ASEAN諸国のような中小規模の経済国では、中間財産業の基盤が整備されておらず、必要な中間財を輸入で対応している国がほとんどである。

第2は、中間財は、インフラ開発や産業発展等の基盤を支える必要不可欠な財である。経済成長の高まりとともに、必要とされる需要も大きくなる。

第3は、電機などの機械産業では、設計開発工程から材料、部品調達、さらに製品組立までの工程を分割して、最適地（労働コストが割安

な国、高度技術者が容易に雇用できる国、部材調達が可能で生産する分業が進んでいる。また、航空輸送、陸上輸送、海上輸送など様々な輸送モードを駆使して、国境を超える工程間分業の構築が可能となっている。

第4が、アパレルや電気機器製品などの輸出をテコとする輸出志向型工業化が、中間財貿易を促進していることなどが指摘できる。

主要11か国の各業種の輸出額に占める東アジア、USMCA、SAFTAのシェアを比較すると、インド太平洋における中間財貿易の核がどこにあるのか鮮明となる(表4-②)。主要11か国の加工品輸出額に占める東アジアのシェアは41.0%、USMCAが19.0%、インドが3.3%と東アジアのシェアが高い。東アジアの内訳は、ASEANが16.7%と中国の11.0%を上回っている。これは、ASEANでは、軽油などの鉱物性燃料取引や繊維、無機化学品、染料、鉄鋼等多くの中間財を海外に依存している。インドは、油脂、無機化学品などの加工品の比率が高い。

部品輸出では、東アジアのシェアが42.8%、USMCAが23.2%、インドは僅か1.8%とこれも東アジアが4割超を占めている。これは、電機部品の輸出に占める東アジアのシェアが52.1%と過半占めているため、特に集積回路では63.8%に達している。

他方、自動車部品輸出では、東アジアのシェアは21.8%、USMCAが51.3%と過半を占めている。航空機部品や鉄道部品でもUSMCAの比率が東アジアを上回っている。東アジアでは情報機器産業、USMCAでは自動車産業の世界的な生産拠点となっている。一方で、インドは機械機器産業の発展が、東アジアやUSMCAと比べて遅れていることを示すものであろう。

4. インド太平洋貿易と米中デカップリング

太平洋貿易は、世界の工場、東アジアと世界

最大の消費市場(資本財、消費財)、米国を結ぶことで発展し、世界貿易拡大の牽引力となってきた。世界の工場、東アジアは、日本から始まり、1980年代には、かつてのアジアNIES(韓国、台湾、シンガポール、香港)、ASEAN、1990年に中国が加わり、長年にわたり産業の集積度を高めてきた。2000年代に入り、中国が世界の工場として君臨し、米中貿易を軸とした太平洋貿易が一段の発展を遂げた。ところが、この太平洋貿易が、米中経済戦争が長期化して、米中デカップリング(分断)により、米中貿易を基軸として発展パターンが変わる可能性が大きい。

第1は、輸出拠点を中国以外に移管するチャイナ+1の動きが活発化するためである。すなわち、中国からASEAN、とりわけ、メコン地域、さらにはインドおよびインド洋周辺国へと、労働コストが割安な国に中国の輸出拠点を移管する動きが、今後、活発化しよう。こうした動きは、輸出拠点の移管先に加工品、部品などの中間財や機械機器などの資本財を輸出することで新たな貿易拡大の契機となり、輸出志向型経済発展の可能性がインドおよびインド洋周辺国に及ぶ。

第2は中国の西進である。中国は、一帯一路構想により貿易インフラの構築など経済協力を通じて、ASEANやインド洋地域、さらには東アフリカ、欧州との貿易に活路を見出している。すでに、中国のASEAN貿易やインド洋貿易は、伝統的な貿易パートナーであった日本やEUにとってかわるポジションを占めている。ASEANやインド洋周辺国への中国の貿易拡大(西進)が、中国の海洋進出を促している。

米中経済戦争がインド太平洋貿易を新たに生み出す可能性がある。

おおき ひろみ/国際貿易投資研究所研究主幹